

## 教育支援センター「ほっと東海」の状況について

令和6年12月23日現在

### 1 通級者数

(単位 人)

教室	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
横須賀	0 (1)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	2 (1)	3 (0)	7 (0)	12 (0)	14 (3)	40 (9)
上野公民館	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (1)	8 (1)	2 (0)	17 (2)
平洲中学校	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	4 (1)	0 (0)	8 (3)
計	0 (1)	0 (0)	2 (2)	3 (2)	4 (1)	5 (1)	11 (2)	24 (2)	16 (3)	65 (14)

※ ( ) は体験入級生

### 2 卒業生の進路予定

#### 【横須賀教室】

- ・日本福祉大学附属高等学校
- ・名古屋工学院専門学校
- ・愛知県立横須賀高等学校 (夜間定時制)
- ・愛知県立武豊高等学校 (昼間定時制)
- ・名古屋市立中央高等学校 (昼間定時制)
- ・名古屋たちばな高等学校 (通信制課程単位制)
- ・科学技術学園高等学校 (通信制課程単位制)
- ・飛鳥未来高等学校 (通信制課程単位制)
- ・飛鳥未来きずな高等学校 (通信制課程単位制)
- ・飛鳥未来きぼう高等学校 (通信制課程単位制)
- ・屋久島おおぞら高等学校 (通信制課程単位制)
- ・日本ウェルネス高等学校 (通信制課程単位制)
- ・第一学院高等学校 (通信制課程単位制)
- ・バンタンデザイン研究所高等部

#### 【上野公民館教室】

- ・飛鳥未来高等学校 (通信制課程単位制)
- ・四谷学院高等学校 (通信制課程単位制)

#### 【平洲中学校教室】

- ・該当なし

### 3 進路への対応

- ・「子どもの自立と未来を語る会」への出席を、時期的に進路が決まりつつある中学3年生だけではなく、中学2年生や小学生高学年の保護者にも勧めている。
- ・教育支援センター「ほっと東海」でも個人懇談を行い、児童生徒の実態や保護者の願いを学校へ伝えるなど、学校と情報共有し、連携を図りながら支援を進めている。また、進路を考える上での参考になる冊子を渡している。
- ・受験に向けて、進路指導は学校中心であるが、教育支援センターでもできることを考えて取り組んでいる。個々の特性を生かすことができる進路先の相談にのっている。また、興味がありそうな高校の資料を一緒に見ながら見通しがもてるようにしている。
- ・入試の時期が早くなったため、3年生の生徒に対しては早い時期から対応し、学習支援だけでなく、作文や面接練習なども必要に応じて行っている。
- ・卒業生の訪問があったときには、高校生活や経験談を聞き、自分の進路の参考にできるようにしている。

### 4 通級状況

- ・本人の体調に合わせて通級しているため、午前や午後のみ通級もある。また、生活リズムの乱れにより、遅刻をする通級生がいる。その一方で、本人の状態を考慮し、話し合うことで少しずつ回数や時間が増えてきたり、朝9時半に来級し一日在室できる通級生も増えてきたりしている。
- ・学習に対して、まじめに取り組んでいる。基本は自習だが、学習支援を希望する通級生も多くいる。
- ・教育支援センター内の友達との関わりで目標を自分なりにもち、苦手な教科に取り組む姿も見られた。
- ・コミュニケーションタイム等で関わり合うことで、良好な交流ができるようになってきた。また、その時間を楽しみに来級する通級生が多くなってきた。
- ・芸術劇場での名フィルのリハーサルや「出会いの教室」、農務課の「みかん狩り」、ほっとプラザの「干支作り」「カードゲーム」、横須賀図書館によるブックトーク、ケアラズカフェのイベント、ボランティアによる習字教室など、多くの関係機関や施設の協力により参加できる体験活動の機会が増えた。
- ・大人数が苦手な、学習コーナーで学習できない通級生が、別室を希望することも多くなっている。
- ・分離不安で保護者同伴だった小学生も一人で在室できるようになり、上級生と楽しく生活できるようになっている。
- ・保護者の送迎が難しく、途中から通級が困難になる児童もいる。
- ・通級時の消毒、マスクの着用、手洗いや使った机等の消毒、距離をとるなど、インフルエンザ等の感染拡大防止の徹底を心掛けている。

## 5 学校との連携

- ・一週間の通級生の様子を文章で各学校にミライム等で報告し、様子を理解してもらっている。特に新しく来級した通級生については、必要に応じて電話連絡をして、様子を伝えている。
- ・在籍校の学校行事・テストには、努めて参加・受験するように働きかけている。
- ・在籍校の先生方が「ほっと東海」に訪問された時に様子を見ていただいたり、情報交換をしたりしている。
- ・学校の備品や施設を使わせていただき、通級生の学習に役立っている。
- ・学校の支援会議に相談員も同席している（平洲中学校教室のみ）。

## 6 課題

- ・生活の乱れや家庭の事情から通級できない通級生がいるが、家庭への支援の難しさがある。
- ・個々に抱える要因が異なるため、集団への適応を段階的に考えて対応していく必要がある。
- ・発達に問題があり特性の強い通級生が増えてきたため、その対応に苦慮している。また、小学生が多いと、中学生に支援が行き届かないこともある。
- ・通級生の支援の在り方について担任と相談する時間の確保が必要と考え、長期休業中にその時間を設定しようと考えたが上手く実施できなかった。
- ・通級生の学年差（年齢差）が大きくなったり、集団が苦手な通級生が多くなったりして一様には支援できず、個々に十分な対応することが難しくなってきた。
- ・児童生徒のみならず、保護者も学校復帰に消極的で、すでに新年度の入級を考えている保護者が少なくない。
- ・小学生の通級生は、保護者の送迎が必要なため、通級生が教育支援センターに通いたくても通えない場合がある。
- ・通級時刻が様々なので固定の時間割を実施しにくいときがある。何時に通級してきても、お互いに活動や学習ができる環境の確保が必要であると思われる。